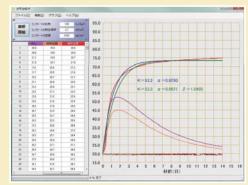


進化した、

断熱温度上昇量推定システム。





- マスコンクリートの 温度ひび割れ発生予測の精度向上!
- 温度制御電力不要で 究極のエコ・省エネを実現!
- 測定途中で停電が生じても、 データロガーが復旧次第、測定の継続が可能
- 都度のキャリブレーションが不要で、 測定作業に手間取らない
- 室温 20℃、少量の試料(30ℓ)で試験が可能



MIT-686-3-11型

概要

従来の断熱温度上昇量試験装置は、試料の中心 温度の測定結果をもとに周辺温度を制御する方式 でした。ですがこの方式では、制御が適切でない場合、 長時間の測定中に誤差が累積され、最終安定温度に 影響が出てしまいます。

「IATER(イータ)」は、温度制御を行わない、新しいコンクリート断熱温度上昇量推定システムです。原理として、装置自体の熱的特性(容器の熱伝導率など)を把握した上で、FEM(有限要素法)によって測定データを逆解析し、断熱温度上昇量を導き出します。これにより、装置導入・稼働ともに低コスト化し、また、人的・制御的誤差のないデータ取得を可能にしました。



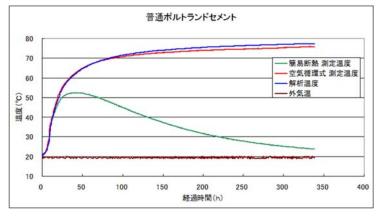
特長

- 温度制御が不要で、省エネ
- 20℃の室温環境下で測定が可能
- 測定途中に停電が生じても、データロガーが 復旧次第、測定継続が可能
- 小型で、容易に移動が可能

仕 様

構 成	試料容器、外容器、温度センサー、解析ソフト
温度測定範囲	0 °C ~ 80 °C
測定分解能	0.1 °C
測定環境温度	20 °C ± 2 °C
温度測定箇所	1 試験体当たり3ヶ所 (試料中心×1、容器×1、外気温×1)
試 料 容 器	指定品使用:約30ℓ使い捨て型
オプション	データロガー、パソコン

※本製品による算出結果はあくまで「推定値」となりますので、ご了承下さい。



【 断熱温度上昇量 解析結果比較 】

使用手順

試料 (30ℓ) を 容 器 に 詰め込む 詰め込んだ 試料の中央に 温度センサー をつける データロガー を 用 い て、 測定を開始 する

取得データを解析



総合試験機のメーカー

株式会社マルイ

HP https://www.marui-group.co.jp E-mail hp-mail@marui-group.co.jp

本 社・工 場 〒574-0064 大阪府大東市御領1丁目9-17 TEL:(072)869-3201 FAX:(072)869-3205

大阪営業所 〒574-0064 大阪府大東市御領1丁目9-17 海 外 部 TEL:(072)869-3201 FAX:(072)869-3205

東京営業所 〒130-0002 東京都墨田区業平3丁目8-4 TEL:(03)5819-8844 FAX:(03)5819-6260

名古屋営業所 〒468-0015 名古屋市天白区原2丁目1322 TEL:(052)809-4010 FAX:(052)809-4011

九州営業所 〒812-0878 福岡市博多区竹丘町2-1-20 灰田ビル102号 TEL:(092)501-1200 FAX:(092)501-1277

代理店

※ カタログに記載された内容は性能向上などのため、予告なく変更することがあります。 2021.8